

CCNet養老支局 第28・29回放送番組審議会議事録

1. 開催方式 書面開催
2. 開催期間 2020年12月15日（火）～2021年1月15日（金）
3. 参加者 委員 松永 武彦
安田 澄雄
松岡 正英
田中 とも子
森川 一俊
松岡 弘泰

4. 議 題
 - (1) 2019年度下期自主放送番組実施結果報告
 - (2) 2020年度上期自主制作番組実施結果報告

5. 議事（要旨）
 - (1) 2019年度下期自主制作番組実施結果報告について

○ご意見、ご感想

『ウィークリーよろろう（養老公園開園140周年特別企画）』

（審議委員）「ウィークリーよろろう」は、公園の中の色々な不思議を紐解く番組はとても面白い。いつも見慣れている所でも新たな発見に気づくことも出来、違った角度から公園を見る事が出来る。訪れる人、見学者の興味深い番組になれば行ってみようと感じる人が増えると思います。

番組で取り上げ、調べて欲しいことを、クイズ方式や町民の人や見学者の疑問質問に答える参加型のコーナーがあると面白い。取材も町民からの協力を得て、多くの興味ある人を巻き込んだ番組も作っては。

（事務局）現時点ではコロナ禍のため、複数人での撮影が難しい状況ではありますが、弊社のガイドラインに沿って状況を見ながら町民を交えた回も制作検討したい。

（審議委員）長年養老に住んでいるが知らない情報であった。これからも養老町の歴史文化について、養老の魅力を伝えて欲しい。養老で発掘された新しい遺跡についても放映を希望。

（事務局）自主制作番組ではないが、2020年度下期にて行政番組で「千人塚古墳」をテーマにした番組を編成。今後も調査結果が明らかになり次第、随時追いかけてたい。

(審議委員) 養老改元1300年の話題として、神話も交えた物語風な企画を制作してみ
てはどうか。

また、養老町の生活史(民俗史)の企画も検討して欲しい。郷土を愛す
る文化、伝統を子ども達に伝える番組など。

(審議委員) 養老町や養老公園について、より深く理解する事が出来た素晴らしい番
組。郷土を理解するには、歴史的な発展過程を知る事が大切なので今後
の企画を期待。

出演者を泉キャスターだけでなく、町民グループも参加してはどうか。

(事務局) 郷土愛を育む観点からも神話や生活史の放送は重要な観点である。番組
制作においては町の有識者の協力を仰ぎながら検討します。

(審議委員) クイズ形式で公園の案内がされていて興味深く見る事が出来た。

(審議委員) 140周年に合わせたタイムリーな企画。町内の歴史探訪をシリーズ化し
て欲しい。

(事務局) 過去に生涯学習課と連携し、町内の史跡巡り番組を企画制作した。現在
はコロナ禍のため制作を一時中断しているが、県内の状況を鑑みて番組
再開を検討中です。

行政情報番組『Yoroちっく「新型コロナウイルス感染症対策について」』

(審議委員) 「Yoroちっく」は、養老町としての情報や保健センターからの対策は参考になった。養老町としての具体的独自の対策情報を継続的に放送してほしい。

日常の不安、悩みなどを受けつけてくれる番組があると少しでも不安解消になる。疑問質問はFAX、応答は番組内で出来ると理想。また、緊迫した状況を町長がテレビで訴え、発信することも一つの案。

(審議委員) 皆が関心もあり、心配である事柄について、細部に渡り、分かり易い内容になっていた。

(審議委員) コロナ対策を徹底することにより、他の病気の予防知識にも繋がり、「健幸」に良い結果が出ていると思う。

今後も保健センター、包括支援センターの取材をはじめ、認知症の話題も放送して欲しい。

(事務局) コロナ対策に限らず、健幸のための健康づくりにつながる番組制作を方針としているため、引き続き認知症や生活習慣病など身近な問題を取材予定です。

(審議委員) 行政情報番組は実におざなりで、無味乾燥である。

今後はもっと内容の充実を図るために、町としても予算の充実を図り、質・量ともに内容を充実させて欲しい。

また、町民のニーズを把握し、関心を高めるためアンケート調査を町として実施頂きたい。

(審議委員) 自粛要請や協力金、申請期限など事業者に細やかな発信を希望。

(事務局) 行政番組については受注番組のため内容については町の意向に沿って制作しております。町民のニーズ把握、番組題材についてはご意見として報告させていただきます。

(審議委員) 町民の感心が非常に高いテーマ。「予防」についての的確に伝えられていた。お知らせの広報誌の表示が見にくかった。

(事務局) 表示方法については、広報誌掲載用のデータを使用しております。見やすさについては解像度を良質なものに変更または、サイズ変更等を検討いたします。

(2) 2020年度上期自主制作番組実施計画について

『ウィークリーよろう 養老町で頑張ってるお店紹介するぞ！（笹屋）』

○ご質問、ご要望

- (審議委員) お店の励みとなるコーナー。店の応援や特色などが紹介されているため店にとってもモチベーションになるのではないかと。
特にコロナ禍においては、お店の規模を問わずコーナーを継続して欲しい。
- (審議委員) お店紹介の中で頑張っているポイントを分かりやすく伝えていた。
また、QRコードの表示もあり、分かりやすかった。
- (審議委員) コロナ禍を打ち勝つための良い番組である。今後も色々なアイデアを持った店の紹介を商工会とタイアップして続けて欲しい。
- (審議委員) 産業の活性化、町の発展に繋がり、人を呼び込む企画である。
新しいベンチャー企業も紹介してみてもどうか。
- (審議委員) 宣伝が行き届いていない店舗にとっては、極めて宣伝効果がある。
店の取り上げ方や順番については優先順位が難しい。
本来は、独自にCMとして実施すべきものである。
- (審議委員) 新規店やテイクアウト、新商品などを定期的に取り上げたい。
企画番組と通常の取材撮影の料金設定が不明である。
- (事務局) 制作するにあたって、店舗の選定については商工会青年部主導のもと協議しております。新規店やベンチャー企業についても弊社からご提案させていただきます。
また、番組制作料については番組の内容や放送時間、回数など、仕様に合わせて制作しているため固定の料金設定はございません。但し、制作ではなくCM放送枠については規定の料金価格がございます。

行政情報番組『Yoroちっく「笠郷自治町民 高齢者へ園児からメッセージ」』

○ご質問、ご要望

- (審議委員) 子ども達の取組みを見て心が和んだ。敬老会の支えとなり、番組視聴者にとっても癒しであった。
コロナ禍においては、心が和む番組が必要不可欠。笑いや癒しのある番組を多く取り入れて欲しい。
- (審議委員) 養老町は町民憲章にある通りお年寄りを大切にする心が身についている。これからもこういった番組を届けて欲しい。
- (審議委員) 世代を超えてメッセージを届けるのは非常に関心の高い番組であった。
- (審議委員) 高齢者世帯が多くなる中で、世代間での交流は良い事。
高齢者が進んで交流出来るような事例等を放送して欲しい。
- (審議委員) 三世代交流のほのぼのとした様子が伝わってきた。
町からのお知らせのナレーションは分かりやすかったが、文字の情報が小さく感じた。
- (審議委員) 色んな行事を通してたくさんの方が登場できる場面を放送して欲しい。
- (事務局) これまでにも番組内では、世代を超えた町民の交流は多くの視聴者からの要望があるため重点的に取材を行ってきました。コロナ禍においては特に人と人が交流しにくい現状であるため、テレビを通した非接触型の交流に協力する事は地元の放送局としての責務であります。引き続き画面を通した交流会や発表会などを制作し、視聴者の心が和むような番組作りに尽力していきます。

以 上